

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	9b	鎖骨上リンパ節単独再発に対する外科的切除は勧められるか？
P	鎖骨上リンパ節単独再発の症例	
I	鎖骨上リンパ節単独転移に対する手術的介入	
C	手術介入以外の対応	
臨床的文脈		重要臨床課題4: 転移再発乳癌に対する外科治療

O1	生存率の低下
非直接性のまとめ	鎖骨上リンパ節転移は発生頻度は低い。鎖骨上リンパ節転移に対する手術追加の有無についてもサンプルサイズが小さく、アウトカム測定も異なるため大きいと見なす。
バイアスリスクのまとめ	鎖骨上リンパ節転移は発生頻度は低い。鎖骨上リンパ節転移に対する手術追加の有無についてもサンプルサイズが小さい。また、背景調整もなされていないことから大きいと見なす。
非一貫性その他のまとめ	鎖骨上リンパ節転移は発生頻度は低い。鎖骨上リンパ節転移に対する手術追加の有無についてもサンプルサイズが小さいため大きいと見なす。
コメント	生存率について報告している論文は少なく解釈が難しいが、鎖骨上リンパ節転移は発生頻度が低く(1.99%)、死亡への影響は少ないと思われる(益)。

O2	無病生存率の低下
非直接性のまとめ	鎖骨上リンパ節転移は発生頻度は低い。鎖骨上リンパ節転移に対する手術追加の有無についてもサンプルサイズが小さく、アウトカム測定も異なるため大きいと見なす。
バイアスリスクのまとめ	鎖骨上リンパ節転移は発生頻度は低い。鎖骨上リンパ節転移に対する手術追加の有無についてもサンプルサイズが小さい。また、背景調整もなされていないことから大きいと見なす。
非一貫性その他のまとめ	鎖骨上リンパ節転移は発生頻度は低い。鎖骨上リンパ節転移に対する手術追加の有無についてもサンプルサイズが小さいため大きいと見なす。
コメント	無病生存率についても報告している論文は少なく解釈が難しいが、鎖骨上リンパ節転移は発生頻度が低く(1.99%)、再発への影響は少ないと思われる(益)。

O3	リンパ節再発
非直接性のまとめ	鎖骨上リンパ節転移は発生頻度は低い。鎖骨上リンパ節転移に対する手術追加の有無についてもサンプルサイズが小さく、アウトカム測定も異なるため大きいと見なす。
バイアスリスクのまとめ	鎖骨上リンパ節転移は発生頻度は低い。鎖骨上リンパ節転移に対する手術追加の有無についてもサンプルサイズが小さい。また、背景調整もなされていないことから大きいと見なす。
非一貫性その他のまとめ	鎖骨上リンパ節転移は発生頻度は低い。鎖骨上リンパ節転移に対する手術追加の有無についてもサンプルサイズが小さいため大きいと見なす。
コメント	少数の報告において腋窩、鎖骨上リンパ節転移に対する手術後のイベントでリンパ節再々発に言及したものがなく、不明確である(害)。

O4	手術合併症
非直接性のまとめ	
バイアスリスクのまとめ	
非一貫性その他のまとめ	
コメント	論文なし

O5	コスト
非直接性のまとめ	
バイアスリスクのまとめ	
非一貫性その他のまとめ	
コメント	比較した論文はないが、乳癌手術においては総額でおよそ75-100万円(3割負担の場合 23-30万円)の費用が生じ、さらに公的保険が適用されない入院中の食事代や差額ベッド代などの諸費用が別にかかるため、非手術と比較してコストはかかると思われる。(害)

O6	入院期間
非直接性のまとめ	
バイアスリスクのまとめ	
非一貫性その他のまとめ	
コメント	比較した論文はないが、乳癌手術においては術式にもよるが、およそ3日~2週間の入院期間が必要であり、非手術と比較して入院が必要になる。(害)

O7	術後後遺症(疼痛)
非直接性のまとめ	
バイアスリスクのまとめ	
非一貫性その他のまとめ	
コメント	比較した論文はないが、乳癌手術後障害として乳房切除後疼痛症候群(PMPS)があり、術後10年を経過しても約20%に症状を認めるとの報告があり、非手術と比較して術後疼痛が起こりうる。(害)

O8	QOL
非直接性のまとめ	
バイアスリスクのまとめ	
非一貫性その他のまとめ	
コメント	論文なし